

県外派遣報告書



一般社団法人  
栃木県バスケットボール協会

様式1

提出日 令和 7年 12月 14日

派遣大会・事業名	第77回全日本大学バスケットボール選手権大会
派遣期間	令和7年12月1日(月)・3日(水)
報告者	武井 晋平
派遣先	国立代々木競技場第二体育館・横浜武道館

派遣スケジュール

12月1日	男子予選リーグ
12月3日	男子1回戦
月 日	

担当試合

試合日	令和7年12月1日(月)
回戦 カード 点数	男子予選リーグ 17:50 北海道教育大学岩見沢校(北海道3) 60ー79 大阪学院大学(関西3)
会場	国立代々木競技場第二体育館
審判員名	CC武井晋平(栃木)U1濱口玄也(新潟)U2小島 柊(東京)
審判員主任名	
試合振り返り	
<p>・ベーシックなメカニクスを実践していくことをPGCで共有し、特にローテーションは、積極的に行なっていくことを申し合わせた。</p> <p>・自分の目の前で起きている現象については、クルーそれぞれが判定を行なっていた。</p> <p>・ドリブラーに対する手の使い方については、前半からテンポセットできれば良かった。</p> <p>・ゲームの途中で、クルーのエリアで大きいコンタクトがあったように見えたが、そのままノーコールでゲームを進めたが、CCとして、ケイデンス等で笛を入れても良かったのではないかと感じた。特に、ショットのドライブでのコンタクトやショットに対する手のコンタクトについては、遅れてでも吹くべきだったと振り返った。</p>	

担当試合

試合日	令和7年12月3日(水)
回戦 カード 点数	男子1回戦 14:00 中央大学(関東9) 69ー71 日本経済大学(九州2)
会場	横浜武道館
審判員名	CC松岡悠貴(東京)U1及川学(岩手)U2武井晋平(栃木)
審判員主任名	
試合振り返り	
<p>・PGCでは、メカニクス、チームの特徴、処置の確認を中心に行った。</p> <p>・試合は、終始競り合いのゲームであり、最後まで勝敗がわからない試合であった。</p> <p>・前半は、自分のプライマリで起こったものに対して積極的に判定を行なっていた。後半については、自分の目の前で起きているもので、アングルが悪く捉えきれなかったコンタクトがあり、CCから笛が入ったケースがあった。1試合を通して、精度の高い判定ができるように、ポジションアジャストや3or2のラッシュを避けることを改めて取り組んでいきたいと感じた。</p> <p>・自分かセンターにいた時に、ショットクロックがリセットされてしまったケースがあった。こちらもLのCCから修正の笛が入ったため、Tが確認できていなかったものに対して、Cにいた自分がクロックの修正に行くべきケースであった。次回は、自分からも積極的に加わりたい。</p> <p>・ベンチコントロールについて、立ち上がる選手たちを幾度か座るよう促したが、何度も注意をしていたので、オフィシャルワーニングを警告として入れた。ただし、ゲームの序盤で、テクニカルファウルなどのもう1歩踏み込んで何らかのコントロールは必要だったと振り返った。</p>	

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝達したいこと

<p>本大会は、プレイヤーとしての人生に区切りをつける選手もいる、非常に大切な大会です。そういった点も意識しながら、大会に臨んできました。ただ単に試合をこなすのではなく、その大会がどのような位置付けにあるのかを理解して臨むことも、審判員として重要であると改めて感じました。負けたチームの選手たちが涙を流す姿を目の当たりにし、私たちが日々の準備や振り返りを丁寧に行い、次につなげていくことが非常に大切な取り組みであると感じました。個人としては、40分間を通して波のない判定を行えるよう、より一層意識を変えていきたいと思います。また、「クルーチーフメンタリティ」という言葉のとおり、自らも積極的に関わっていけるよう、さらに強いメンタリティを持つ必要があると感じました。今回の派遣にあたり、学連の皆様には大変お世話になり、心からお礼を申し上げますと共に、派遣にあたり、梶審判長には、心から感謝を申し上げご報告いたします。</p>
---